

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 3年 3月 26日

関東運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果 の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
熊谷市地域公共交通会議	事業者名: 国際十王交通株式会社	<p>運行系統名: 江南地区路線「ほたる号」 【概要】一般乗合旅客自動車運送事業 【運行日】平成23年10月1日運行開始。毎日運行。ただし、1月1日から1月3日まで運休。 【運行時間帯】6:18～19:25 【運行本数】1日5.5往復 【運行ルート】江南行政センター～熊谷駅南口～江南行政センター～籠原駅南口～江南行政センター 【運行車両】ノンステップバス 1台 ※国庫補助金「車両原価償却費等」あり 【運賃】(1)1回の運賃 100円(2)1日乗車券 300円(3)回数券(11枚綴り)1,000円(4)運賃の免除について 未就学児、障害者手帳(3種)所持者及びその介助・付添人1人、運転免許自主返納者(無料乗車証か運転経歴証明書の提示)</p>	<p>目標については、順調に達成しているが、更なる利用促進を行うため、平成27年3月に策定した「熊谷市地域公共交通網形成計画」に従い、平成30年10月にルート・時刻の見直しを行った。(本系統は変更なし。)</p>	<p>計画どおりに事業が開始され、順調に運行されていた。</p>	<p>【利用者数】 《目標》 令和2年度(R1.10.1～R2.9.30) 33,452人 1便(往復)当り16.8人 《実績》 令和2年9月末時点 (R1.10.1からR2.9.30まで1991便運行) 25,529人 1便当り12.8人 《考察》 令和元年9月末時点の1便当りの乗車人数の実績が16.8人であり、今回の実績が12.8人となっており前年実績比75%である。これは、令和2年3月からの新型コロナウイルス感染症に係る外出自粛等の影響によるものと考えられる。</p>	<p>【既の実施した利用促進策】 ・「江南地区路線」の愛称、イラストを公募し、新規車両の納車に合わせ、ラッピングを施工した。 ・江南地区の地元自治会と一緒に周知を行い、更なる利用者の増加に努めた。 ・H27.1から利用促進策の一環として、回数券を販売した。 ・H30.10から、バスロケーションシステムの導入、熊谷駅、籠原駅バス停への表示機設置を行った。 【今後の改善点】 ・H30.10からのルート・時刻の見直し後の推移を見ながら、路線の充実を図り、利用者の増加を図る。</p>	<p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されており評価出来る。 補助対象であるコミュニティバス(ゆうゆうバス)の利用者数については、今年度の目標を達成できなかった。この点は、新型コロナウイルス感染拡大の影響があげられているが、利用者減少の要因を新型コロナウイルス感染症の影響のみとせず、こうした増減の理由を丹念に分析し、その結果を踏まえて今後の施策の検討を進めて頂きたい。今後も、持続可能な公共交通を構築されるよう進めていただきたい。</p>	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年2月26日

関東運輸局

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
加須市地域公共交通会議	事業者名:朝日自動車(株)	【シャトルバスの運行】 新古河駅西口～プラザきさい(騎西総合支所)	・シャトルバスの利用促進を図るため、利用料金を一定期間(R2.3.20～R2.3.28)無料とすることで、バスを利用するきっかけづくりをした。	●計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・市の北部から南部までを結ぶシャトルバスの運行により、市内の鉄道間の連携及び市の一体性が図られている。 ・各フィーダー系統については、利用状況や意見等を踏まえて必要に応じ改善を図っている。	令和2年度の1日平均利用者は13.3人であり、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響もあり、前年度の17.2人から減少し、目標である30人に対する達成割合は44.3%であった。	市民ニーズや利用状況を分析の上、運行経路やバス停留所の見直しについて検証し、より利用しやすいシャトルバスの運行改善に努める。 令和4年6月に、加須駅南口に埼玉県済生会加須病院の開院が予定されていることから、新病院へのシャトルバスの乗り入れを含め、運行経路全体の見直しを行い、利便性の向上を図る。	デマンド型乗合タクシー利用登録者数は目標達成したが、シャトルバス・デマンドの利用者数は目標未達成となった。 シャトルバスについて、市町村合併後の地域格差の是正という目的も理解するが、どういった目的・ニーズで利用されているか、今一度検証が必要。 シャトルバス、循環バス、デマンド、既存バス路線相互間での乗継改善策や運賃施策など、地域全体を踏まえた改善策の検討を期待する。	
加須市地域公共交通会議	事業者名:朝日自動車(株)、加須タクシー(株)、騎西タクシー(有)	【デマンド型乗合タクシーの運行】 加須市全域及び久喜市内栗橋駅西口	・デマンド型乗合タクシーの更なる周知ため、市広報紙(令和2年3月号)及び市ホームページ(https://www.city.kazo.lg.jp/shisei/koutsuu/10440.html)において情報掲載をした。	●計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 ・市全域等におけるデマンド型乗合タクシーの運行により、交通弱者の移動手段の確保や公共交通不便地域の解消が図られている。 ・各フィーダー系統については、利用状況や意見等を踏まえて必要に応じ改善を図っている。	令和2年9月末時点での利用登録者数は、15,670人であり、目標である15,000人に対する達成割合は104.5%であった。 令和2年度の1日平均利用者は102.8人であり、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響もあり、前年度の125.0人よりも減少し、目標である120人に対する達成割合は85.7%であった。	運転免許証の自主返納者が増加傾向であることを踏まえると、デマンド型乗合タクシーに対するニーズはますます増えていくと思われる。 令和4年6月に、加須駅南口に埼玉県済生会加須病院の開院が予定されていることから、新病院へのデマンド型乗合タクシーの乗り入れについて準備を進めるとともに、市民ニーズや利用状況を分析の上、運行経費等とのバランスも考慮しながら、より利用しやすいデマンド型乗合タクシーの運行に努め、更なる利用促進を図る。	デマンド型乗合タクシーに対するニーズはますます増えていくと思われる。施設等の送迎バスも含め、トータルとしてバランスが取れていることが必要。送迎バスは勝手にやっているから関係ないではなく、市ががんばるべきところ、民間に任せるときところを見極め、全体として市民にとって利用しやすい交通体系となるよう、地域公共交通会議のなかで活発な議論をして頂きたい。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 3年 2月 26日

関東運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持補助事業

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
本庄市交通政策協議会	朝日自動車株式会社	本庄北地域デマンド	○新規利用者の獲得のため、広報紙上にPRを兼ねた懸賞クイズを掲載した。	計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	目標利用者数: 13,000人 R2年度利用者数: 10,127人 目標利用者満足度: 満足 85%以上 不満足 現状より減少 R2年度利用者満足度: 満足 45% 普通 27% 不満 24%	新型コロナウイルス感染症の影響により、なるべく外出を控えるといった行動変化が利用者数に表れているが、移動手段を持たない交通弱者にとって買い物、通院といった日常の足となっているデマンド交通は、コロナ禍の中にあっても一定の利用がある。こうした状況はしばらく続くと思われるが、利用状況の推移を見ながら、予約システムや車両数の見直しなど利便性を向上させる見直しを検討していく。	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。また、デマンド交通の周知と利用促進のため試乗券を配布しアンケートを実施したり、地域コミュニティの集まりなどを活用し、利用説明を行うなど利用促進に取り組みられたことを評価する。しかし、目標を達成することが出来なかった部分もあり、目標を達成出来なかった点については、新型コロナウイルス感染拡大の影響があげられているが、利用者減少の要因を新型コロナウイルス感染症の影響のみとせず、こうした増減の理由を丹念に分析し、その結果を踏まえて今後の施策の検討を進めて頂きたい。今後も、持続可能な公共交通を構築されるよう進めていただきたい。	
		本庄南地域デマンド	○評価検証の一環としてアンケートを実施した。					
		児玉市街地デマンド	○区域間共通の停留所設置し、利用者の利便性向上を図った。					
		児玉山間地域デマンド	○利用方法についてより分かりやすく周知するため、地元ケーブルテレビに働きかけ、デマンド交通の乗り方についての番組を放送してもらった。					
本庄市交通政策協議会	本庄観光株式会社	本庄シャトル便	○HPや駅自由通路に利用案内を掲載し、利便性の向上と利用促進を継続して図った。	計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	目標利用者数: 13,000人 R2年度利用者数: 9,802人 目標利用者満足度 満足 85%以上 不満足 現状より減少 R2利用者満足度 満足67% 普通26% 不満4%	満足又は普通とアンケートで回答した利用者が93%となっている。今後もしばらく新型コロナウイルス感染症の影響により以前より低い利用者数を推移すると予想される。アンケート等で寄せられる意見も踏まえ、より利用しやすい運行内容を必要に応じて検討していく。		

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年2月26日
関東運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	
深谷市地域公共交通会議	(株)協同バス	北部定期便: 深谷駅北口～渋沢栄一記念館～深谷駅北口 (車両減価償却費等 国庫補助金申請系統)	・市民アンケート、公共交通利用者ヒアリング調査の実施。 ・深谷市地域公共交通網形成計画の基本方針を目指して、深谷市コミュニティバス「くるりん」再編計画に基づいて事業を実施。 ・車椅子利用者数の目標数値の見直しを行った。	計画どおり事業は適切に実施された。	【目標1:利用者数の増加】 (目標)62,477人 (実績)19,139人 【目標2:利用者満足度の向上】 (目標)利用者アンケートで各項目とも前年度調査以上の満足度 (実績)13項目中、2項目達成 【目標3:収支率の向上】 (目標)14.3% (実績)15.7% 【車両取得に係る目標:車椅子利用者数】 (目標)6人 (実績)2人 収支率は目標を達成できたが、利用者数及び利用者満足度、車椅子利用者数は、目標を達成することができなかった。	平成27年度に運行事業の再編を実施してから5カ年以上経過し、市民への定着が進んだ。令和2年4月から定時定路線バスの運行を再編し、利用者数の増加を見込んでいたが、新型コロナウイルス感染症の増加により、国の緊急事態宣言が発令されたことにより、不要不急の外出自粛及び学校の休校、テレワークの推進などにより、4月からの利用者が激減したため、利用者数は目標を達成することができなかった。また、利用者満足度は13項目中2項目は前回の満足度を上回ることができたものの、これまでの調査に比べ満足度の向上を図ることができなかった。収支率については、これまでの運賃を1日乗り放題から、4月以降1回乗車200円、定時定路線バスについては、2キロ未満100円、2キロ以上200円と運賃を改定したことにより、目標達成できた。今後も地域における望ましい公共交通ネットワークを示すため、『深谷市地域公共交通網形成計画』や『深谷市コミュニティバス「くるりん」再編計画』にある基本的な考え方により、引き続き自治会における説明会や広報活動を行い、市民のバス利用に対する理解を深め、利用者の増加等に繋がるよう情報提供に努めていく。	運賃施策の効果等により収支率に関する目標は達成できたものの、利用者数及び満足度に関する目標は未達成となった。目標が未達成となった要因を新型コロナウイルス感染症の影響のみとせず、利用者が伸び悩んだ理由、満足度について十分な結果が得られなかった理由等について分析を行い、今後の施策の検討を進められることを期待する。また、コミバスやデマンド交通について、どういった目的・ニーズで利用されているか、運行形態や行き先、予約システムが利用者のニーズに合致しているか検証を行い、市民にとって利用しやすい公共交通となることを期待する。
深谷市地域公共交通会議	花園観光バス(株)	北部シャトル便: ①深谷駅北口～深谷警察署(西)、大寄公民館～渋沢栄一記念館 ②深谷駅北口～新井郵便局前、福寿荘前～新戒 (車両減価償却費等 国庫補助金申請系統)	・市民アンケート、公共交通利用者ヒアリング調査の実施。 ・深谷市地域公共交通網形成計画の基本方針を目指して、深谷市コミュニティバス「くるりん」再編計画に基づいて事業を実施。 ・車椅子利用者数の目標数値の見直しを行った。	計画どおり事業は適切に実施された。	【目標1:利用者数の増加】 (目標)62,477人 (実績)19,139人 【目標2:利用者満足度の向上】 (目標)利用者アンケートで各項目とも前年度調査以上の満足度 (実績)13項目中、2項目達成 【目標3:収支率の向上】 (目標)14.3% (実績)15.7% 【車両取得に係る目標:車椅子利用者数】 (目標)6人 (実績)2人 収支率は目標を達成できたが、利用者数及び利用者満足度、車椅子利用者数は、目標を達成することができなかった。	平成27年度に運行事業の再編を実施してから5カ年以上経過し、市民への定着が進んだ。令和2年4月から定時定路線バスの運行を再編し、利用者数の増加を見込んでいたが、新型コロナウイルス感染症の増加により、国の緊急事態宣言が発令されたことにより、不要不急の外出自粛及び学校の休校、テレワークの推進などにより、4月からの利用者が激減したため、利用者数は目標を達成することができなかった。また、利用者満足度は13項目中2項目は前回の満足度を上回ることができたものの、これまでの調査に比べ満足度の向上を図ることができなかった。収支率については、これまでの運賃を1日乗り放題から、4月以降1回乗車200円、定時定路線バスについては、2キロ未満100円、2キロ以上200円と運賃を改定したことにより、目標達成できた。今後も地域における望ましい公共交通ネットワークを示すため、『深谷市地域公共交通網形成計画』や『深谷市コミュニティバス「くるりん」再編計画』にある基本的な考え方により、引き続き自治会における説明会や広報活動を行い、市民のバス利用に対する理解を深め、利用者の増加等に繋がるよう情報提供に努めていく。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年2月26日

関東運輸局

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持事業

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の 改善点	評価結果	
白岡市地域公共交通確保維持改善協議会	昭和タクシー有限公司	<p>【デマンド交通「のりあい交通」】 事業者名:昭和タクシー 運行区域:市内全域 運行日:月曜～土曜(祝日、年末年始運休) 運行時間帯:8時30分～17時30分 運行本数:9便/日(平成30年3月までは8便/日) 運行車両:セダン型車両 運賃:500円(障害者、小学生は300円、乗り合い利用の割引制度あり)</p>	<p>パンフレットの全戸配布、地域のイベントにおける啓発品の配布や出前講座等を実施し、地域の自治会や民生委員などの協力を得ながら事業の認知度向上と制度の理解促進を図った。 また、平成30年4月から12時30分からの1時間の運行を開始し、利便性向上を図った。</p>	<p>計画に基づき、適切に実施した。</p>	<p>1日当たりの利用者数が目標の42.5人に対して30.5人、収支率が目標の20.0%に対して15.5%となり、1日当たりの利用者数、収支率ともに目標に届かなかった。 7・8・9便の1便当たり利用者についても、それぞれ2.5人、2.4人、2.0人となり、昨年度と比べて減少した。 コロナ禍において不要不急の外出が制限された中、高齢者や駅、バス停から離れた地域の居住者などのいわゆる交通弱者のかたが、病院や買物等で利用されており、日常生活に必要な移動手段として浸透している。</p>	<p>引き続き、地域の自治会や民生委員などの協力を得ながら、制度の理解・利用促進を図るとともに、地域の声を聞き運行のあり方を考えていく。 特に令和3年4月からは、利用の多い1～4便の3台運行を実施し、輸送力を強化し、コロナ禍における利用者の増加を図っていく。</p>	<p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。 昨年度に引き続き、目標値を下回った要因を新型コロナウイルス感染症の影響のみとせず、利用が伸び悩んだ理由を分析し、その結果を踏まえて今後の施策の検討がされることを期待する。 具体的な事業や検討結果等について記載していただきたいと昨年度の評価で指摘した、事業評価結果の反映状況について、今年度も同じ内容となっているようなので、目標の達成に向けた取組などが実施されるよう検討することが望ましい。</p>	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表

令和 3年 2月 26日
関東運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
鳩山町地域公共交通会議	(株)越生タクシー	デマンドタクシー	<p>●『デマンド交通全体の利用促進』については、令和2年3月1日に町内全戸に配布した「はとやま公共交通マップ(改訂版)」でデマンドタクシーの利用方法を周知するとともに、令和2年12月に町内全世帯に実施した「公共交通ニーズ調査」では、デマンドタクシーの利用についての意識付けを行った。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響から利用促進の広報等は見送ったが、民間路線バス及び町営路線バスの利用者数に寄与する交流人口(町への来訪者)を増やすべく、令和2年10月に町PR動画を公開するとともに、ふるさと納税返礼品に体験型返礼品(ゴルフ場プレー券・ゴルフ練習場利用券)を追加した。</p> <p>●『住民のニーズを踏まえた運行改善』及び『住民の行動変容等を踏まえた持続可能な公共交通の構築』については、令和2年12月に町内全世帯に実施した「公共交通ニーズ調査」の結果を踏まえて、特にニーズの高い「町外へのアクセス性向上」に向け、令和3年3月中に検討結果及び改善計画をまとめ、改善計画に沿って令和3年度以降に実現に向けた準備を行う予定である。</p> <p>●『利用促進広報後の追跡調査』については、上記のニーズ調査の結果と、平成20年度及び平成27年度に行ったニーズ調査との経年変化を分析することで、追跡調査としたい。</p>	<p>計画どおり事業は適切に実施された。</p>	<p>【指標】デマンドタクシー1日平均利用者数 ・実績:67.2人(目標値:80人) 【目標未達の理由】 利用状況を分析すると、埼玉医大便の利用者数は目標18.7人に対し16.6人で88.8%の達成率、町内便の利用者数は目標61.3人に対し50.3人で82.1%の達成率となっている。期間中に新型コロナウイルス感染症が拡大したことにより、外出控えが発生したことが主な要因と考えられる。</p> <p>【指標】町内公共交通(民間路線バス、町内循環バス、町営路線バス、デマンドタクシー)の1日あたりの利用者数 ・実績:3,095人(目標値:3,409人) 【目標未達の理由】 利用状況を分析すると、民間路線バスが目標値の2,967人に対し2,996人で101.0%の達成率、町内循環バスが目標値の38人に対し21人で55.3%の達成率、町営路線バスが目標値の324人に対して78人で24.1%の達成率となっている。期間中に新型コロナウイルス感染症が拡大したことにより、外出控えやテレワーク等が発生したことが主な要因と考えられる。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響下においても、消毒や換気等の感染症対策を行いながら運行を継続することで、以下の項目を達成できた。</p> <p>・交通不便地域を解消(町内全域をカバー)した。</p> <p>・通学・通院・買物等の主な目的地への移動手段の確保はできている。</p> <p>・利用者、住民等の満足度等の維持・向上が図られた。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の終息時期が見通せない状況であるが、令和2年12月に行った「公共交通ニーズ調査」の調査結果の公表と合わせ、利用促進の広報を行う。また、ニーズ結果を踏まえた町外へのアクセス性向上のための運行エリア拡大を図ることで、利用者増につなげる。</p> <p>利用状況を分析すると、特に町営路線バスと町内循環バスの利用者数を増やすことが課題となっている。</p> <p>町営路線バスについては、新型コロナウイルス感染症の終息時期が見通せない状況であるが、沿線内に今後完成・供用開始となる上熊井農産物直売所や泉井体験交流エリアの利用促進を図ることで、利用者数の増加を図る。町内循環バスについては、令和2年12月に実施した「公共交通ニーズ調査」の結果等を踏まえて、今後のよりよい公共交通の在り方を検討することにより利用者数の増加を図る。</p> <p>町民の移動手段の確保や満足度をより一層高めるため、令和2年12月に町内全世帯に実施した「公共交通ニーズ調査」の結果を踏まえて、特にニーズの高い「町外へのアクセス性向上」に向け、令和3年3月中に検討結果及び改善計画をまとめ、改善計画に沿って令和3年度以降に実現に向けた準備を行う。</p>	<p>事業が計画に位置づけられているとおり、適切に実施されている。</p> <p>貴町については、民間路線バス、町営路線バス、町内循環バス、デマンドタクシーが運行しており、町営・民間路線バスの地図やルートが掲載するとともに、バスが接続する町外の鉄道の時刻表も掲載するなど、利用者にわかりやすい情報提供を行っている点を評価する。</p> <p>目標の達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響により目標達成には至らなかったが、今後の改善点としてあげられている公共交通ニーズ調査の結果等を踏まえ、今後のよりよい公共交通の在り方の検討を行うなど、利用者数の増加や満足度の向上を図り、今後も持続可能な公共交通の構築に取り組んで行くことを期待する。</p>	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 3年 2月 26日

関東運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
ときがわ町地域公共交通活性化協議会	株式会社越生タクシー	おでかけワゴン「おはよう時間便」	新規事業	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された	目標稼働率30%以上に対して101%の稼働率があった。計画通りの結果となった。	開始から1年が経過し、利用状況がわかってきた。利用者の声、未利用者の声を聞き、更なる利用者増となるように取り組みたい。	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施されており、評価できる。また、おはよう時間便及びお出掛け時間便について目標を達成されていることも評価する。新型コロナウイルス感染症の影響等により、目標値を達成できなかった部分もあるが、引き続き、運行開始時からのデータを蓄積することや、利用者及び未利用者の声を聞くなど、現状がニーズに合致しているかを検証し、利用者の新規発掘やリピーターの獲得に努めていただき、市民にとって利用しやすい持続可能な公共交通を構築されることを期待する。	
ときがわ町地域公共交通活性化協議会	株式会社越生タクシー	おでかけワゴン「おでかけ時間便」	新規事業	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された	目標稼働率30%以上に対して42%の稼働率があった。前期(10月～3月)1382回から後期(4月～9月)1712回の伸びがあった。			
ときがわ町地域公共交通活性化協議会	株式会社越生タクシー	おでかけワゴン「おかえり時間便」	新規事業	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された	目標稼働率30%以上に対して15%の稼働率があった。前期(10月～3月)127回から後期(4月～9月)101回と減少した。コロナ禍の影響はある。			

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 3年 2月 26日

関東運輸局

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
小鹿野町地域公共交通会議	秩父丸通タクシー株式会社	<p>運行系統名： 小鹿野伊豆沢長若乗合タクシー</p> <p>本乗合タクシー運行事業は、主に小鹿野町の交通空白地域を含めた地域を運行し、西武鉄道・西武秩父駅及び秩父鉄道・秩父駅から町内へと運行している西武観光バス小鹿野線の複数の停留所と接続し、町営バスとの接続や地域内の高齢者・障害者を中心とした利便性向上を図るものである。</p>	<p>前回の評価結果では、現状の運行体制を維持し、利用促進のためのPRを行うこととしていた。</p> <p>今年度は、便数の削減や料金の値上げなどを行うことなく、地域住民からの要望があった両神地区の乗降ポイントを令和2年8月に追加した。また、当日予約が令和3年3月から開始できるように変更を行い、利便性の向上を図った。</p> <p>また、77歳以上バス優待券申請時等に乗合タクシーのPRを実施するとともに、町広報誌に新たにPR記事の掲載を行った。</p>	<p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>新型コロナウイルスの感染拡大の影響により利用者が減少したため、事業が計画に位置づけられた目標である利用者数を達成できなかった。</p> <p>【目標】年間利用者数 2,100人 【実績】 1,805人</p>	<p>運行開始から7年が経過するが、新規利用者が少なく、利用者が固定化傾向にある。本年度は、地域住民からの要望があった両神地区への乗降ポイントの追加や当日予約が令和3年3月から開始可能になるなど利便性を向上させることができた。</p> <p>今後は、利用者数が少ないことから待機時間が長くなっているため、余剰の時間に観光客利用の実現や運行区域の拡大などを視野に入れ、多くの方に利用される公共交通となるよう改善を図る。</p>	<p>事業が計画に位置づけられたとおり適切に実施されている。</p> <p>また、予約方法の変更や、乗降ポイントの追加などで利便性の向上や利用者数の増加を図られていることを評価する。しかし、目標・効果の達成状況について、昨年と同様に利用者数が目標を下回る結果となっているため、要因の把握・検証を行い、改善を図っていくことを期待する。</p> <p>また、目標が達成出来なかった理由として、新型コロナウイルス感染拡大の影響があげられているが、利用者減少の要因を新型コロナウイルス感染症の影響のみとせず、こうした増減の理由を丹念に分析し、その結果を踏まえて今後の施策の検討を進めて頂きたい。今後も、持続可能な公共交通を構築されるよう期待する。</p>	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 3年 2月 26日

関東運輸局

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
寄居町地域公共交通活性化協議会	有限会社本間タクシー 株式会社桜交通 大信観光花園有限公司	・デマンド型の乗合タクシーを町内全域で運行する。 ・事前の予約に応じてドア・ツー・ドア方式により運行する。	利用状況のデータを蓄積・分析するとともに利用率向上に向けた検討を行った。 HP等の情報の見直しや発信を積極的に行った。	計画どおり事業は適切に実施された。	R2(R1.10～R2.9)事業 ○目標 ・利用者数…45人/日 ・収支率…21.1% ○達成状況 ・利用者数 43人/日 ・収支率 17.6% ・収支差 18,912千円 (運行経費 22,940千円) (収益 4,027千円) ・相乗り率 55.4%	利用者数、収支率ともに目標値を達成することができず、また、いずれも前年度実績を下回る事となった。 新型コロナウイルス感染症による外出自粛等の影響により利用者数が減少した。 収支率の低下は、利用者数の減に応じた運行回数の削減は実施しなかったことおよび人件費の増加等による運行経費が増加したことが要因と考えられる。 利用登録者数は増加していることから、継続利用者のほか、随時利用者への広報を実施し、利用者数増のため、引き続き利用しやすい環境づくりを目指す。 また経費削減のため、利便性が低下することを最小限としつつ、効率的な運行を検討していく。	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。 取り組みについては、公共交通を効率よく利用してもらうために曜日別、時間別の利用状況を広報でお知らせするなど、積極的に情報発信されていることを評価する。 目標の達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響により目標達成には至らなかったが、引き続き、利用状況のデータを蓄積・分析するとともに利用率向上に向けた検討を行うことや、情報の発信を積極的に行うなど、さらなる利用促進の取組みに期待する。 今後の改善点については、記載にあるとおり、利便性の低下を最小限としつつ、効率的な運行を検討し、持続可能な公共交通となるよう努めることを期待する。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 3年 2月 26日

関東運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
毛呂山町地域公共交通活性化協議会	株式会社越生タクシー	山地域1、2コース	住民アンケートや地区からの要望等を踏まえ、令和元年3月に策定した毛呂山町生活交通確保維持改善計画(改訂)を策定した。計画の内容に基づき、令和元年10月より、ダイヤ及びルートの変更、停留所の新設、毎週土曜日運行等を実施した。また、地区からの要望等を受け、令和2年4月より、運行本数が少なかった一部系統において、増便を行った	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	【目標】 ①利用者数 112人/1日 ②往復利用者割合 63% ③利用者満足度 92% 【実績】 ①利用者数 88.1人/1日 ②往復利用者割合 63% ③利用者満足度 53% ※1 ①は運行実績、②③はもろバス利用者アンケートより集計 ※2 ③はアンケートの選択肢の変更に伴い、満足度は参考数値となります	1日あたりの利用者数は昨年度実績の116.6人に対し、今年度は88.1人と大きく減少した。平成29年の運行見直し以降、利用者数は増加傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、外出の自粛等が続いたため、利用者数が減少したと思われる。また、マスク未着用の利用者に対する苦情等も発生しており、利用者満足度低下の一要因として新型コロナウイルスの感染拡大が影響していると思われる。依然として収束の見通しが立たない状況であるため、今後も利用者の減少が続くと思われるが、感染症対策の徹底や周知を図ることで、利用者数の回復、満足度の向上に努めたい。令和3年10月からの運行見直しに伴い、令和3年3月に毛呂山町生活交通確保維持改善計画の改訂を予定している。これまでの運行実績や令和2年に実施したアンケートの結果等を踏まえ、より利便性の高いコミュニティバスとなるよう検討を行いたい。	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。取り組みについては、ダイヤ及びルートの変更、停留所の新設やバス待ちスポットの設定など、利便性向上に努めていることは評価できる。目標の達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、目標達成には至らなかったが、今後も住民アンケート等を利用したニーズの把握に努め検証を行ったうえで、利用しやすい公共交通となるよう努めていただきたい。引き続き、持続可能な公共交通の構築に向けて取り組まれることを期待する。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年2月26日

関東運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
幸手市地域公共交通会議	株式会社東埼玉観光バス	幸手市デマンド	利便性を高め、利用者増を図るため、引き続き計画における事業の目標を利用者数の増加に設定した。また、目標を達成するために運行内容やオペレーション等の改善・見直しについて検討するとした。	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	予約受付におけるオペレーションの面での対策等を講じてきたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響が大きく、利用者増につなげることができなかった。一方で、利用者に対して、通院や買い物等の日常生活を支える移動手段を確保するという役割は果たすことができた。	利用者全体の約90%が60歳以上の方、また、約半数が障害者又は要介護・要支援認定を受けている方となっており、今後も増加することが予想される。ニーズに応えるためにも、福祉施策との連携を取っていく必要がある。今後も引き続き、利用者増を図るため、需要が多い時間帯の効率的な運用を検討していく。	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。 昨年度に引き続き、目標値を下回った要因について、影響が出る前の前年比の利用者数の増減はどれほどであったのか検証し、減少の傾向が見られるようであれば、新型コロナウイルス感染症の影響のみとせず、利用が伸び悩んだ理由を分析し、その結果を踏まえて今後の施策の検討がされることを期待する。 運行内容やオペレーション等の改善・見直しについて検討が行われ、利用者増の取組が実施されることを期待する。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年2月26日

関東運輸局

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
上里町地域公共交通活性化協議会	株式会社協同バス	中央ルート 北部ルート 南部ルート	<p>例年8月に実施している利用者アンケート調査を令和元年9月にダイヤ改定を実施したため、令和元年度分は令和2年3月に実施。また、令和2年度分は例年どおり令和2年8月に実施した。「上里町地域公共交通網形成計画」策定時に実施した町民アンケート及び利用者アンケート調査の結果を分析し、地域ニーズに合った持続可能な公共交通サービスの実現に向け、現状の業務期間後(令和3年4月以後)の運行形態について検討した。</p>	<p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された</p>	<p>※全ルート 【目標】 ①利用者数 前年度比向上 前年度実績:54.9人/日 ②満足度 前年度比向上 前年度実績:11% (②は前年度と今年度では調査方法が異なる。前々年度は、今年度と同じ調査方法であり満足度76.8%) 【実績】 ①利用者数 42.6人/日 ②満足度 R2.3実施 52.1% R2.8実施 84.4% ①利用者数については、目標未達であったが、②満足度については、目標を達成することができた。</p>	<p>利用者数については、令和元年9月のダイヤ改定の定着がないまま、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、利用者数が減少した。満足度については、昨年度から大きく上昇した。 今後もアンケート調査を実施し、アンケート調査や利用者OD調査の結果から、1つ1つ改善事項に取り組んでいく。 令和2年3月には、上里町内の公共交通網の利便性を向上させ、持続可能な地域公共交通を実現させることを目的に「上里町地域公共交通網形成計画」を策定した。策定計画に基づき、定時定路線のあらゆる可能性を追求するため、令和3年3月にルート再編を実施予定である。また、駅を中心としたまちづくりと連携し、「コンパクト・プラス・ネットワーク」の実現に向け、令和5年度からの運行形態についても検討していく。</p>	<p>利用者アンケートの実施によってニーズの把握に努め、利用者満足度の向上に繋がったことは評価できるが、1日あたりの利用者数に関する目標は未達成となった。新型コロナウイルス感染症の影響により目標達成には至らなかったが、今後も引き続きアンケート調査やOD調査等を通じたニーズの把握に努め検証を行ったうえで、利用者にとって利用しやすい公共交通となることを期待する。</p>	